

2002・平成14年

復習用現代語訳

家庭教師はその人選がむずかしい。教師が厳しいと子どもの成績向上には有利だが、長くは続かない。やさしくすれば教師自身には有利だが、親の期待にそむく。

最近、ある大物が家庭教師を雇って子どもを教えさせた。時がたつても学業が進歩せず、教師は恐縮のあまり辞職しようとした。これを悟った雇い主は、教師に酒をふるまい、名望家の跡継ぎはたいてい不肖者ふしやうものなのだ、昔からの例を列挙して言った。「名声は時代を問わず最高の物なので、万物の創造主はこれを惜しむ。だから、前の者が名声を多く獲得すれば、後の者はもうこれを手にいれることができない。」教師は（子どもの成績が伸びなくても解雇されないと）悟り、その後はすっかり気が楽になった。

張無垢ちやうむこは言う。「私はその家の子どもを見て、素直でつつしみ深く優秀であれば、普通の人が宝を大事にするように無くしたり傷つけたりするのを心配するだけでなく、絶対にその子を出世させてやりたいと思う。だから子どもを教えるにあたっては、（報酬が少なければ手を抜こうなどといった）ごまかす気持ちなど一切起きない。

子どもがひねくれて冷酷である場合でも、その子のために善を勧めすて悪を戒めいまし、大きなため息をつきながらもその子を感じ化して導く。このことを私はいつも実行しようと願っている。

ところが他の教師たちは教育に際し、雇い主からもらう報酬の

厚薄こうはくによって、一生懸命になるか手を抜くかを決めている。まった

くお笑い草だ。ぐん張無垢むこうの気概は誠実そのものであり、尊敬すべきで

ある。※だから張無垢のような人物を家庭教師にすべきだが、それ

はむずかしいものだかた難しとす原文「行目」。

訳注

1 家塾つかせどを典つかさどる…家庭教師を雇って子どもを教育する。※当時（南

宋 1127～1279年）科挙の試験を受けるのは「士大夫しだいふ」と言われる金持ちであり、家庭教師を雇って自宅で自分の子どもたちに受験教育を施す。

2 招まねク客きやく…外部から人材を採用すること。

3 士人しじん…知識人。科挙に合格することはできなかったが、子どもを教育する程度の学識はもっている者が家庭教師となる。

4 人家…他人

5 今いま…「学まな」古いにしえ 非そしレ今いま (『史記』焚書坑儒の一節からの造語) なのが儒教の基本。したがって「今」は批判の対象となる眼前の社会現象を指すのが通例。

6 乃すなわち…かえって、反対に。

音読用書き下し文

家塾かじゆくを典つかさどるは其その人かたを難かたしとす。蔽げんなれば則すなわち子弟しよていに利きあるも久くしくする能あたはず、狎なるれば則すなわち己おのれに利きあるも其その父兄ちやくの託たくに負おく。

頃このころ、一鉅公客いちちきよこうきやくを招まねき子を訓おしへしむ。積日せきじつ業進ぎようまず、蹶踏しゆくせきとして退しりぞかんと欲ほつす。鉅公きよこう之これを覚さとりて、置酒ちしゆし、汎ひろく昔むかしより名流なりゅうの後嗣こうし類おのおの振むかはざるを引ひき、且かつつ曰いはく、「名者な者、古今ここんの美器みきにして、造物ぞうぶつ者もの深こく之これを吝おしむ。前人ぜんじん之これを取とること多おほければ、後人こうじん豈あに応まさに復また得うべけんや。」と。士人しじん解悟かいごし、其その迹遂あとつひに安やすし。

張無垢ちやうむこうい云いふ、「某人家それがしじんかの子弟しゆんきんおよの醇謹しゆんきん及び俊敏しゆんびんなる者を見れば、之これを愛あいすること畜ただに常人じやうじんの宝たからを愛あいするがごとく、唯ただだ其そのの埋没まいぼつ及あび之これを損傷そんきするを恐おそるのみならず、必かならず之これをして尊貴そんきの所ところに在あらしめんと欲ほつす。故ゆえに人家じんかの子弟しよていを教おしふるに、敢あへて一点いっの欺心ぎしんも萌きざさず。其その鄙下ひかこくはく刻薄たも、亦たた為ために勸戒かんかいし太息たいそくして之これを感誘かんゆうす。此これ

平生へいせい為さんとねが樂ふ所の者なり。今子弟いまを教ふるに、乃ち主人すなわの厚薄を以て隆殺を為す、亦た笑ふべし。」と。渾然たる忠厚の氣、敬して之を仰ぐべし。

注…勸戒太息…問題文は「勸戒太息して」と読んでいるが、「勸戒太息」という四字熟語は存在せず、「太息」は次の「感誘」とあわせて意味をなす。そこで音読用書き下し文では「勸戒し」と読んだ。

【解説】 【主張をつかむ】

ステップ1 最初の2行を見る

「家塾（私設の塾^{注1}）をつかさどるは、その人を困難しとす。」これ以降は傍線Aなので、読むのを停止。

ステップ2 最後の3行を見る

オシリから 読むとわかるよ お結論¹¹⁰

結論は末尾にあるので、うしろからながめる。傍線Eが問題なので、末尾だけが読める。

10行目「渾然たる（大きく、充実した^{注9}）忠厚の氣、尊敬してこれを仰ぐべし」。指示語「これ」の内容は不明。

ステップ3 最終設問の選択肢を見る

共通する言葉を探すと次のとおり。

1行目 家

①② 家庭教師

10行目 なし

10行目に共通項がないので、この段階で①②を正解候補にはできないが、筆者は家庭教師について何かを主張しているらしい。これで十分。これが大事。ここで退却。

問2 A〔注〕主張対比 「説明・注で正解つかめ！〔例〕」により注1を見ると、「塾」の話なのでこれは日本と同じ学習塾。漢文では科挙（高級官僚採用試験）のための学習塾。そこで「子どもの成績：向上」の①と④の戦い。

次に①「父兄が厳格」か④「家庭教師が厳格」かについてだが、三つのステップにより筆者は家庭教師について主張するのだから、④が正解だろう。でも確認が必要。そこで「論文は対比に注意！」により傍線Aとその次が左のように対比（対句ついく）になっていることを使う。

□が	X厳なれば	⇕	子弟に利あるも	⇕	久しくするあたわず
	Y狎るれば	⇕	自己に利あるも	⇕	父兄の委託にそむく

□に家庭教師をいれて確認してみると、

X…教師が子どもに厳しいと、子どもの成績向上に有利だが、子どもが厳しさに耐えられないので長く教えられない。

Y…教師が子どもに厳しくない^狎と、（長く教え続けることができるので）自分の生活に有利だが、（成績を上げてほしいという）父兄の期待にそむく

となって矛盾がない。したがって④の正解が確定。

なお□に「父兄」をいれると、Y「父兄が厳しくない^狎と 父兄に有利だが 父兄の委託にそむく」|| 「自分に有利だが自分に不利」となってYが明白に矛盾する。

問1ア 見かけは「引」が問われているが、実際にはその直前の「汎」の問題。辞書の初めに「凡例」「汎例」という言葉を見たことがない人には難問だったろう。「凡例・汎例」^{はんれい}とはその本における記号や用語などの一般的意味。原文では「汎例として昔（からの例）を引き」だから「昔からの例を引用して」となり⑤が正解。

問2 B ^あ 「豈に…んや」反語[%]の問題。訳は「どうして〜か。いや〜」だから、「後の人はどうして得ようか。いや得られない。」となり、④「獲得することはむずかしい」か⑤「受け継ぐことはできない」の戦い。傍線Bの前半は「…多ければ、（已然形+ば）」なので、

訳は「∴ので」か「∴（する）」と「∴として」であり、「∴としても」の⑤は負けて④が正解。

問3〔主張〕〔最初と最後で 筆者は主張ⁱⁿ〕により第二段落の最初と最後を熟語も使ってザッと訳すと次のとおり。

〔有力者^注〕が客を招き子を教えさせた。学業が進歩せず、（その客人は）おそれつつしみ^注退職^職せんと欲す。∴^c士人は理解^理し悟り、そのあと遂に安心した。

客が「おそれつつしみ」↓（有力者の話があつて）↓士人は「安心した」ので、客⇨士人⇨家庭教師。したがって傍線Cの内容としては、「退職」を「辞職」に翻訳し、「辞職しようとしていた家庭教師が、子どもの成績不振を責められていないことを悟った」とする

①が正解。

②のキズは「解任」。原文の「解悟」は上下ほぼ同じ意味なので、「解」は「理解する」の意味。したがって「解^{とク}任^{にんラ}…任務を解^とく」と訳すことはできない。③「高給」の話は原文にない。

問4 a^{シテ} 使役^シの問題。「使^{シム}A名詞をして B動詞…AをしてB(せ)しむ」だから、傍線Dの中の「之^{これ}」がA名詞で「在^ある」がB動詞であり、読みは「之^{これ}をして在^あらしむ」。漢文慣れしていれば、「欲」は「くせ

んと欲す^{ほっ}」と読めるので、「之^{これ}をして…在^あらしめんと欲す^{ほっ}」となり、正解は②。私はヒックリ返り点が苦手なので、日本語の読みから攻めた。

問4 b シテ 「欲す^{ほっ}」の訳は「…と思う・願う」なので正解は①、②、③。「使む^し」という使役の訳は、「くせる、くさせる」なので①の「くかせて↓つかせる」が正解。内容を理解して解こうとすれば時間がかかるし不正確。正解するには正確な訳。

正解は 正確な訳で 作られる

そして正確な訳はひたすら基本的知識を使う^{コレダケ}耳^{のみ}・而已^{のみ}。

正解は コレだけ知識で作られる

問1 イ 漢 アと同じく「息」の問題というより、前後の文章の理解の問題。「説明・注で正解つかめ！」^注により、注を駆使してザッと訳すと、「心がいやしく人情味がない^注」（とんでもない生徒で）も、（善^{すず}を）^{すす}勧め（悪^{いまし}を）^{たいそく}戒め太息してこれを感化して導く^注」。数年に一度の割合で経験するのだが、まゆげを剃り落し、数枚のカミソリをペンダントにして首から下げ、こちらに「眼^{ガン}を飛ばす」生徒さんに対し、私は思わずビビッて「太息」しつつ、気を取り直して授業に

励む。「太息たいそく…太く息する」とは「あー…。」と長い溜息ためいきをもらすことであり、正解は「嘆息たんそく…あーと嘆く」の③。

なお、②「安息」の「息」は「休息」と同じで「休む」の意味。

④も「息災そくさい…息やすましむ災わざわいら。..息災を願う⇨安全を願う」で、「休む・休ませる・止める」の意味。

問5⑤_二熟二 9行目に「今」があるので、「今の世はまちがっている！」により、傍線Dは非難されるダメのはず。しかしどの選択肢も「…いいかげんに教える」ダメ状態。そこで受験のウラわざ「1字の漢字は熟語で訳せ。熟語の訳で正解探せ！」_三から出発する。

傍線Eの「厚薄」は上下反対の意味の熟語だから、「厚」と「薄」に分けた上でさらにそれぞれを熟語にすると、「厚遇こうぐ⇨②報酬が多い」「薄給はくけい⇨②報酬が少ない」と、④「厚こう⇨温厚」「薄はく⇨薄情」。そこで「報酬たかの多寡たか多おほいか少おほないか」で教え方を変える②と「親の性格が温厚」か「薄情」かで教え方を変える④の戦い。

ふたたび「今の世はまちがっている！」にもどると、傍線Dは非難されるダメ教師だ。金が少なければ手を抜く教師②も、親が冷たければその子に冷たくする教師④もどちらもダメだが、「ダメ今」は「ま

ちがっている！」と強く非難されるので、金が少ないと教えない奴の方がけしからん！そんな教師は許せない！そこで正解は②。

労働経験がないと、時給の多寡たかも雇い主の性格も同じだと思っか
もしれない。しかし、社長がどんなに残酷でも給料が多ければなん
とかがまんするのが普通の人間。したがって、薄情な親の子に教え
ない教師④は、ダメというより異常な人。これは社会に出ていずれ
わかるでしょう。純朴じゆんぼくな人はこの問5を落としてもしかたがあるま
い。他の問題でがんばろう。

問6主張 二つのステップでつかんだ筆者の主張は「家庭教師」に関
するものだったね。「最初と最後で 筆者は主張主張」の原則により、
全文最後の「尊敬して之これを仰ぐべし」が筆者の主張。そして「これ」
は直前を受ける。しかも尊敬の対象なので人物。すると10行目まで
語っている張無垢ちやうむこという人物注5が「之これ」であり、彼こそが筆者の言
うヨイ家庭教師なのだろう。ただし正解に至るには私も時間がかか
った。

① 「どんな子どもでも：勉学に励む」② 「どんな子どもにも：学
力をつけさせる」④ 「教え子：の生来の性格を傷つけない」は原文
にない。

③は「…だけでなく」が原文の「…のみならず」^aと対応するし、「他の教師の教えも受けさせるべき」の「させる」が傍線Dの「使^しむ…させる」と合う。しかし、傍線Dの「尊貴の所」は「高い地位」^{問4 b ①}であって③「他の教師」ではない。

⑤は「どんな子どもに対しても、常に全力で教える」の「常に全力」がキズかもしれない。原文では「心がいやしく人情味がない^{注こ}生徒に対して「太息たいそく(大きなため息)」について教えているからだ。しかし筆者は最終行で彼を「忠^誠↓誠実」「厚^情」と評価しているし、張さん自身も「一点の^詐欺心も萌さず…ごまかす気持ちはまったく起きない」^{8行目}と述べているので⑤「常に全力」は問題ないだろう。